

# 彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, June 2020

課長：佐藤 裕久 H. Sato

幹事：下元 繁男 S. Shimomoto

## ○ 6月の状況 (佐藤)

☆ C/2017 T2 (PANSTARRS) (写真 a)

彗星課メーリングリスト (oaa-comet ML、以下同じ) などに次のように報告があった。

6月26日 22:20、筆者から「5月28.50日、29.56日 UT、高橋俊幸さん(栗原:D95)は0.25-m f/4.2反射+CCDでそれぞれ全光度を9.1等、9.3等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

7月6日 01:57、筆者から「6月7.46日 UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDで全光度を9.0等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

7月21日 07:37、筆者から「6月20.71日 UT、高橋俊幸さん(栗原:D95)は0.25-m f/4.2反射+CCDで全光度を16.5等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

6月中、国内で位置観測したのは他に、安部裕史氏(島根県松江市八束:367)、吉本勝己氏(山口県平生町:P87)であった。

☆ C/2019 U6 (Lemmon) (写真 b、c)

6月8日 08:03、筆者から「6月3.37日 UT、Michael Mattiazzo (Swan Hill: Q38)は、C11 RASA f/2.2 + Canon 60Daで、G光度を9.5-9.6等と観測しました」とのコメントと画像を紹介し改良軌道要素と位置推算表(眼視観測用)を報告した。

7月6日 01:25、筆者から「6月20.45日、7

月2.44日 UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDでそれぞれ全光度を7.0等、7.5等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

6月中、国内で位置観測したのは他に、安部裕史氏(島根県松江市八束:367)であった。

☆ C/2019 Y1 (ATLAS)

6月26日 22:45、筆者から「5月29.58日 UT、高橋俊幸さん(栗原:D95)は0.25-m f/4.2反射+CCDで全光度を11.8等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

7月6日 01:19、筆者から「6月20.48日 UT、門田健一さん(上尾:349)は0.25-m f/5.0反射+CCDで全光度を14.9等と観測しました」とのコメントと改良軌道要素を報告した。

☆ C/2020 F3 (NEOWISE) (写真 d)

6月23日 19:12、筆者から「C/2020 F3 (NEOWISE)が明るいです。SOHO-LASCO C3の画像に入ってきました。光度は2.8-2.9等ぐらいでしょうか。2020/06/22 10:06 UTの画像から見えています。次の画像は2020/06/23 03:42 UTのもので、…SWANの画像では6月19日のものが輝度も強くC/2019 U6より明るく写っています」とのコメントと画像を紹介した。

同日 20:29、筆者から「SWAN画像の更新です。最新(6月21日)C/2017 T2、C/2019 U6、C/2020 F3と58Pが確認できます。C/2020 F3の輝度が

強いです。頭部がマスクにかかりました」とのコメントと画像を報告した。

7月2日07:38、筆者から「C/2020 F3の地上からの観測です。Carl Hergenrother (LPL)は、7月1.49日UT、12.5-cm×30双眼鏡で光度1.0:等、Dia. 1'、DC7と眼視観測しました。次はCOBS (Comet Observation database)による光度曲線(Light Curve)です」とのコメントと光度曲線を紹介した。

### ○ 6月に発見が確認された彗星

☆ C/2020 K6 (Rankin) David Rankin の通報によると、5月26日UT、Mt Lemmon サーベイの1.5-m反射望遠鏡で得たCCD画像から彗星を発見した。約8"の集光したコマとp. a. 90°に向かつてわずかな尾がある。小惑星センターのPCCP webpageに公表後、佐藤英貴氏(東京都文京区、0.51-m f/6.8アストログラフ、Siding Spring, NSW、遠隔操作)は、5月26.8日UT、60秒露出16枚のスタックで、恒星状の外観に見えた。4".9の円形範囲で測定した光度は20.3等であった。A. Aletti (0.36-m f/6反射望遠鏡, Varese, イタリア)の報告では、5月28.04-28.07日UT、30秒露出スタックで、拡散した5"のコマが見えた。光度は20.0等で尾はない(MPEC 2020-L03、CBET 4788、2020 June 1)。

☆ C/2020 K7 (PANSTARRS) R. Weryk (ハワイ大学、天文学研究所)の通報によると、5月20日、HaleakalaにあるPan-STARRS1 1.8-m Ritchey-Chretien反射望遠鏡で得た4枚の45秒w-バンドCCD画像から彗星を発見した。非常に集光した1.7"のコマ(1".0のシーイング

において)とp. a. 245-315°にまたいで広い6"の尾がある。小惑星センターのPCCP webpageに公表後、佐藤英貴氏(5月31.4日UT、120秒露出7枚のスタック、0.43-m f/6.8アストログラフ、Mayhill近郊、カリフォルニア州、遠隔操作:強く集光した8"の丸いコマが見えるが尾はない。5".7の円形範囲で測定した光度は19.3等であった)らCCD位置観測者によって彗星状と観測された(MPEC 2020-L09、CBET 4790、2020 June 2)。

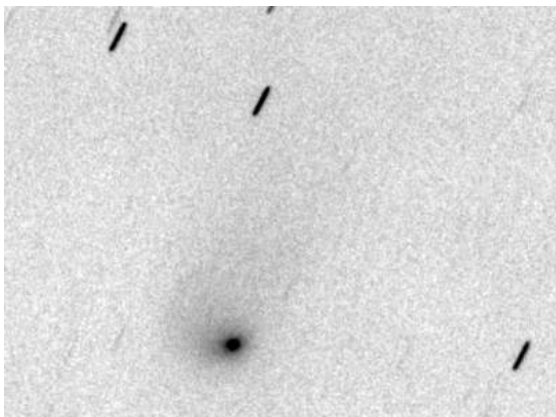
☆ C/2020 K8 (Catalina-ATLAS) 5月25日、28日と29日に、Catalina Sky サーベイの0.68-m Schmidt望遠鏡と6月7日にハワイHaleakalaにある小惑星地球衝突最終警報システム Asteroid Terrestrial-impact Last Alert System (ATLAS) 調査プログラムのコースに0.5-m f/2 Schmidt反射望遠鏡で得たCCD画像から独立して小惑星状天体が発見された。この天体は小惑星センターのPCCP webpageに公表後、多くのCCD位置観測者によって彗星状に見えることがわかった。E. Guido (Castellammare di Stabia, イタリア)の報告では、M. Rocchetto, E. Bryssinck, M. Fulle, G. Milani, C. Nassef, G. Saviniと彼が、6月9.4日UT、0.6-m f/6.5アストログラフ、El Sauce, チリ、望遠鏡ライブ: フィルターなし60秒露出29枚のスタックで、拡散した約10"の不規則なコマが見えた。測定した光度は19.1-19.2等であった)や佐藤英貴氏(6月11.4日、60秒露出14枚のスタック、0.43-m f/6.8アストログラフ、Mayhill近郊:強く集光した8"の丸いコマが見えるが尾はない。5".7の円形範囲で測定した光度は18.8等であった)らCCD位置観測者によって彗星状と観測

された (MPEC 2020-L4、CBET 4796、2020 June 12)。

☆ P/2020 K9 (Lemmon-PANSTARRS) 5月22日、Mt Lemmon サーベイの 1.5-m 反射望遠鏡と、5月26日、Haleakalaにある Pan-STARRS1 1.8-m Ritchey-Chretien 望遠鏡で得た一夜の CCD 画像で小惑星状天体発見の通報があった。小惑星センターによって受け取られた他の二次的な位置観測と G. V. Williams によって結合され、その彗星のような軌道のため 6月16日の Williams のリンクの後に小惑星センターの PCCP webpage に公表され、他の望遠鏡によって得られた画像が彗星状であることがわかった。佐藤英貴氏(6月16.74日 UT, 60秒露出 12枚のスタック, 0.51-m f/6.8 アストログラフ, Siding Spring, NSW, 遠隔操作:強く集光した 8"の非対称のコマが見えるが尾はない。4".9の円形範囲で測定した光度は 19.4 等であった)や R. Weryk (ハワイ大学, 6月17.5日, R. Wainscoat, C. Wipper と T. Burdullis が Mauna Kea にある 3.6-m Canada-France-Hawaii Telescope で得た 3枚の 60秒 gri-バンド画像から、この天体は明らかに彗星で、p. a. 230-280° に約 5"の広い尾があり、コマは近傍の恒星より大きく半値全幅 (FWHM) は 1".83 対 0".93)ら CCD 位置観測者によって彗星状と観測された (MPEC 2020-M26、CBET 4797、2020 June 18)。

☆ P/2020 M1 (PANSTARRS) Y. Ramanjooloo (ハワイ大学, 天文学研究所)の通報によると、6月17日、Haleakalaにある Pan-STARRS1 1.8-m Ritchey-Chretien 反射望遠鏡で得た画像から

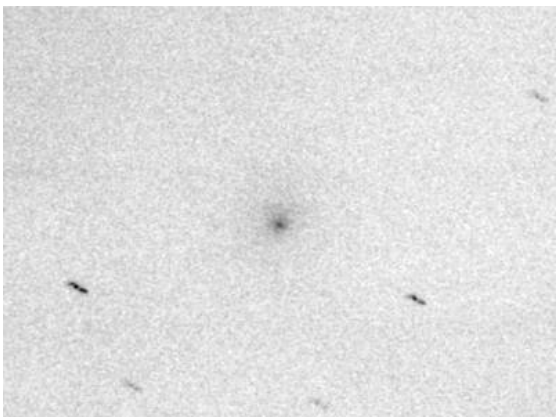
彗星を発見した。この彗星は、非常に集光した 1".4 のコマ (1".0 のシーイングにおいて)と p. a. 228° に 3".8 の真直ぐな尾がある。5月24日と6月11日に Pan-STARRS2 1.8-m 反射望遠鏡で、5月28日に Pan-STARRS1 でそれぞれ発見前の位置観測があった。R. Weryk (ハワイ大学)の報告では、6月20.3日日 UT、二夜、R. Wainscoat, H. Januszewski と S. Prunet が Mauna Kea にある 3.6-m Canada-France-Hawaii Telescope で得たフォローアップ CCD 観測から、6枚の 60秒 gri-バンド画像は、南西に向かって約 2"伸びた短い尾が見え、彗星の頭部はシーイングが 0".9 において、半値全幅 (FWHM) は 1".2 であった (MPEC 2020-M76、CBET 4800、2020 June 23)



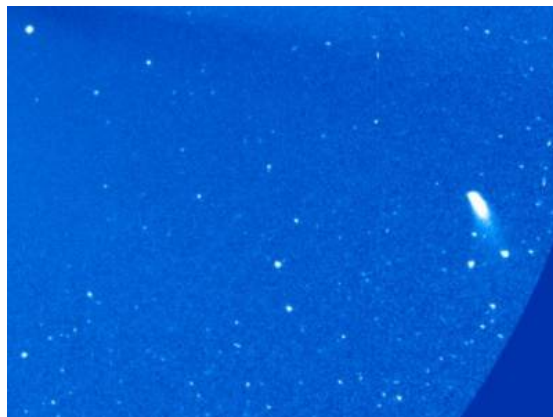
(写真 a) C/2017 T2 (PANSTARRS)  
2020, 06, 28 20h46.0m-21h19.0m (JST)  
exp. 120s×11 TOA130 + CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) C/2019 U6 (Lemmon)  
2020, 06, 03 08h55m (UT)  
exp. 300s C11 RASA f/2.2 + Canon 60Da  
Michael Mattiazzo  
Swan Hill, VIC, Australia



(写真 c) C/2019 U6 (Lemmon)  
2020, 06, 28 20h13.1m-21h20.2m (JST)  
exp. 120s×4 TOA130 + CCD  
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) C/2020 F3 (NEOWISE)  
2020, 06, 27 04h06m (UT)  
SOHO/LASCO C3  
Copyright:ESA and NASA